

地域福祉計画啓発事

市民たすけあいフォーラム

～講演会&パネルディスカッションを開催しました～

平成20年6月7日(土)、安城市文化センター マツバホールにおいて、「地域における新しい支えあいの姿を求めて」をテーマに、住民流福祉総合研究所長 木原 孝久氏を講師に招いての講演会&「助けられ上手さんになろう！～当事者から始まる地域づくり～」をテーマに、藤野 千秋氏(城南町内会長)、松岡 万里子氏(認知症高齢者の家族)、中田 和子氏(在宅の障害者)、横山 晃代氏(三河安城駅前マンションママの会)の4名のパネリストと、コーディネーター兼コメンテーターの木原氏でパネルディスカッションが開催されました。

当日は、開場前から多くの安城市民の方々が参加し、500名収容の会場が、ほぼ満席となるほどの熱気と活気にあふれました。



<プログラム>

- 1 開会のことば
- 2 市長あいさつ
- 3 講演会 テーマ 地域における新しい支えあいの姿を求めて
講師 住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久氏
- 4 パネルディスカッション
テーマ 助けられ上手さんになろう！
～当事者から始まる地域づくり～
パネリスト
城南町内会長 藤野 千秋氏
認知症高齢者の家族 松岡 万里子氏
在宅の障害のある方 中田 和子氏
三河安城駅前マンションママの会 横山 晃代氏
コメンテーター兼コーディネーター
住民流福祉総合研究所 代表 木原 孝久氏
- 5 閉会のことば

市長あいさつ

【挨拶の要旨】

●「福祉」の意味

「福」は神様が与えてくださるお神酒を指し、神様が与えてくださる最大の祝福のこと、「祉」は神様が与えてくださる幸せ・賜物が語源です。

英語では Welfare といい、「Well」満足に、「Fare」暮らし・生活が語源となっているということから、

福祉とは、「満足に、よりよく幸せに暮らしをおくること」ということができます。



●「幸せに暮らしをおくること」の意味

お釈迦さまと弟子との問答のやりとりを例として、お釈迦様が弟子に「幸せの水を自らのものにするにどうしたよいか」と問うたところ、弟子は、「幸せの水を自らのものにするために、自分に引き寄せる努力をすることが必要である」と応えました。それに対するお釈迦さまの答えは、「幸せという水が入った器を、無理に自分に引き寄せようとするとこぼれてしまう。よって、幸せという水を己がものにしようと思うのならば、相手にむけてやれば、自ずと己がところに還ってくる」でした。相手の幸せを思う気持ちが、自分の幸せにも通じることだとの教えと捉えることができます。この考え方は「情けはひとの為ならず、巡りめぐって己が為なり」のことわざに示されています。

●実効性のある地域福祉の推進に向けて

地域福祉計画を、前述の例示を実践する指針と位置づけることが必要であると考えます。

お互いがお互いのために行動することにより、結果的に自分も含めた皆が幸せになれるよう、今後とも、それぞれの地域において、地域福祉の推進・取り組みにご努力いただけるよう、お願い申し上げます。

講演会「地域における新しい支え合いの姿を求めて」(講師:木原 孝久氏)

暮らしの場としての「地域」で、「ひと」と「ひと」としてのご近所つながり・支え合いがあってこそ、その人らしい生き方が全うでき、そのことを実現していくことが「福祉」の本質です。

その一歩として、「助けられ上手さん」になるための住民の支え合いマップづくりを町内単位で取り組んでいくことを提案されています。

「助け上手」と「助けられ上手」は表裏一体の関係であり、「支え合うことは、結び合うこと」であると、木原氏自身の具体的な実践例をもとに講演されました。

●”助けられ上手”なろう！

助け合いがされなくなってきたと言うけれど、困った時に助けを求めれば10人中9人は助けてくれる。助けを求められないと、助けても良いのか判断に困る。

逆に、困ったときに助けを求めることができる人は、百人中ほんの数人。助け合いが始まらないのは、みんな「助けられ下手」だったからなのだ。

誰もが、困ったときに周りの人に助けを求めることができるようになれば、助け合い、支え合いのまちをつくることができる。

「助けられ上手」とは、当事者が福祉の主演だという自覚に立ち、自身に必要な資源を発掘・活用していくことを指す。

●「助けられ」も立派な「福祉活動」だ！

一方的にサービスを受けることは、サービスの「受け慣れ」を助長し、自立を妨げる。住み慣れた地域で暮らすとは、溢れる資源の中で生きること。

人は、「心の賃借対照表」のバランスをとって生きている。助けられるばかりだと「借り」ばかり増えていく気がする。当事者の立場なら、「できれば助けられたくない」と考える。なぜなら、「借り」を返せないのだから、助けられるたびに自分自身の尊厳や誇りが打ち碎かれる気がするから。「借り」を返せるような状態を作るためには、手助けが必要な人を「〇〇できない人」と考えるのではなく、その人が周囲の人に対して何ができるかを考え、実際に行うことが大切。それによって、日常生活にも張りが出る。

また、人に助けられたくないと思える人でも、同じ悩みを抱えた人同士ならば、悩みを話したり、お互いに助け合ったりしやすい。そのため、セルフヘルプグループ（当事者団体）を作ったり、今あるグループに加入したりすることも大切。福祉はもともと「セルフ」だった。

●50世帯ほどの「ご近所人脈福祉圏」をマップで浮き彫りにしよう！

住民は小学校区、町内会ではなく、住民同士、お互いの顔の見える50世帯ほどの「ご近所人脈福祉圏」で福祉人脈ができていく。まず、その人脈を見つけ出すことが必要だ。

地図上で「舐めるように」一軒一軒の顔を思い浮かべ、「ああ、あの人は」、「そういえばこの人は」と、記憶の中から蘇らせていく。気になる要援護者はいるか、誰を頼りにしているか、どんな世話焼きさんがいるか、どんな世話を焼いているか、どんな生活課題があるのか、どんな対策を講じているか、まずは住民のふれあい支えあいマップを住宅地図におとしてみよう。

(＊講演要旨及び住民流福祉総合研究所 HP より抜粋)



パネルディスカッション「助けられ上手さんになろう！」

～当事者から始まる地域づくり～



パネルディスカッションの様子: 向かって右から藤野氏、松岡氏、中田氏、横山氏、木原氏、後方は手話通訳者

【パネリスト】

- | | |
|-------------------|----------|
| ● 城南町内会長 | 藤野 千秋 氏 |
| ● 認知症高齢者の家族 | 松岡 万里子 氏 |
| ● 在宅の障がいのある方 | 中田 和子 氏 |
| ● 三河安城駅前マンションママの会 | 横山 晃代 氏 |

【コーディネーター兼コメンテーター】

- | | |
|---------------|---------|
| ● 住民流福祉総合研究所長 | 木原 孝久 氏 |
|---------------|---------|

【パネリスト発言要旨】

➤ 横山 晃代氏 「支えあうことは結び合うこと自分からの第一歩が大切です」

マンションに新たに移り住んだ住民同士、お互いの顔をほとんど知らない状況だったので、地域の防災訓練を「きっかけ」に「地震があったら陸の孤島になるんじゃないか」と怖くなりました。台風のときに、保護者への連絡がないまま子どもが早く帰宅したことがあり、気をもんだこともあります。子どものことが心配で「地域の母親どうしのつながりがほしい」と思ったことが、地域の様々な活動の「きっかけ」になりました。

*木原氏コメント: 母親としての「したたかさ」と「しなやかさ」も福祉活動の重要な要素。

➤ 中田 和子氏 「地域に包み込まれている安心感が自立を支えています」

以前は、なるべく人に迷惑をかけないように、身近な困りごとでも近所の方に頼むことができませんでした。社協のヘルパーさんから町内会を通じて、公的サービスではない支援(ゴミ出しなど)を、近所の方をお願いできるようになってから、近所の方とお話ができるようになりました。町内会の行事などやパソコンクラブなどにも参加するようになり、少しずつ町内に知り合いができるようになりました。

*木原氏のコメント: 中田さん自身の町内会等への参加は、重要な中田さんなりの福祉活動。

➤ 松岡 万里子氏 「認知症の母が、自分や家族を変え、地域を変えました」

認知症の義理の母が、大声や徘徊することから、自分自身も地域に飛び込んでいかざるを得なくなり、そのことを「きっかけ」に、自治会長の藤野さんや地域の皆さんとも知り合うことができました。認知症の母と散歩することで、地域の新たな発見もできました。認知症の母が、母なりに徘徊(散歩)することを全うすることができるように、今後も自分なりに関わっていきたい。

*「助け」「助けられ」は、表裏一体。

➤ 藤野 千秋氏 「自分が変わることが、地域を変える力に」

松岡さん達のように、本人を含め家族を地域の中で支えていくことが今後ますます必要となります。そのためには、家族自身が、それぞれの問題を自分だけで抱え込むのではなく、ありのまま地域にさらけ出すことが、地域を変える力となります。

パネリストの方々の、かざらない体験談と家族としての思いや、身近な地域における支え合いの取り組みへの熱意あふれる発言に、会場からは、時にうなづきや拍手がおこりました。

身近な事例を知ることによって、会場につめかけた市民の皆さんが、地域福祉の推進に向けた「明日への一歩」を踏み出す契機となったかと思えます。

講演会とパネルディスカッションの内容を 手話通訳と要約筆記でもご案内



話しをする人の近くに 手話通訳者を設置



舞台向かって右の席に 要約筆記モニターを設置



大きく広がれ福祉の輪

みんなで支える地域の輪

